昭和大学歯科病院だより　2017.　1月号

通算140号
2017. 1.15 発行

―昭和大学歯科病院の理念―

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者　病　院　長　槇 宏太郎
編集責任者　広報委員長　髙橋 浩二
〒145-8515　東京都大田区北千束2－1－1
TEL 03-3787-1151（代表）
ホームページ：http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html

新年のご挨拶

昭和大学歯科病院長　槇 宏太郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、昭和大学歯科病院への多大なご支援とご尽力を頂きまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

今年の干支は酉（とり）で、成果を得ることができる年とされます。

本院も、今まで培って来た、全人的医療の展開、地域医療への貢献、先進的歯科医療の探求、高度な臨床教育など、各分野における目標を再確認し、さらに邁進する所存でございます。

具体的には、1）本院に通院なさっておられる皆様からの御意見を拝聴する機会を設けること、2）地域で開業されている歯科医の方々との連携業務を密にして支援体制のさらなる充実を図ること、3）様々な最先端技術の導入によって患者さんの負担を出来るだけ減らすこと、そして、4）学生や研修医の諸君も含めて、常に我々の現場の医療を客観的に評価すること、などを着実に実現して行きたいと考えております。

全ての教職員がやりがいを感じながらこの一年を過ごし、多くの患者さんに喜んで貰えるよう頑張る所存です。

本年も何卒宜しくご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

早朝の富士山　撮影：岩野

新年のご挨拶

歯科衛生室　係長　鈴木恵美

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、佳き年をお迎えのこととお慶び申し上げます。酉年である2017年の日本における平均寿命は男性80.58歳、女性87.3歳と推測されています。日本の人口は2004年にピークを迎え、減少局面に入っています。2055年には日本の人口は9000万人を割り込み、高齢化率は40%を超えると推計されています。皆様は健康寿命という言葉をご存知でしょうか？健康寿命は『健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間』を示します。つまり、平均寿命と健康寿命との差は、『日常生活に制限のある不健康な期間』を意味します。健康寿命は平均寿命より男性が9年、女性が12年少ないと言われ、現在は健康寿命を延ばす様々な働きがけが勧められています。その中で、栄養摂取の入り口となる口、すなわち口腔機能の健康は健康寿命の延伸には大切であるとクローズアップされています。

お口の健康が全身の健康に大きな影響を与えるといわれて久しいですが、歯を失うと『食事がしづらい、会話がしづらい』など食生活や社会生活等に支障が出てきます。そして、よく噛んで食事がしづらくなると栄養状態が悪くなったり、人と会話がしづらくなると社会参加がしにくくなります。そうすると、身体的にも精神的にも不安定となり、全身の健康にも影響が出てきてしまいます。歯やお口の健康を保つことは、単に食物を咀嚼する役割だけでなく、食事や会話を楽しむなど、豊かな人生を送るためのQOLの維持にも繋がります。歯を失う80%以上の原因は歯周病もしくは虫歯といわれていますので、歯を失わないためにも日頃からのケアが大切となります。ご自身のホームケアだけに頼るのではなく、専門的なケアも取り入れ、ご自身の口腔環境を整えることから始めてみませんか？

昨年の4月より当院「お口の健康センター」では『口元からより美しく健康に！』をコンセプトに、健康な歯とお口を保つための継続的な科学的口腔管理をご提案・実施しています。生涯を健康で若々しく豊かに過ごすための秘訣は『よく噛んで、笑うこと』です。『歯の色が気になる』『歯をもっと白くしたい』などのご希望の方には、「ホワイトニング外来」で、お口の中を確認したうえで、ご自身に合ったホワイトニング方法もご提案しています。お口の健康センターもホワイトニング外来も『健康長寿を支える口腔機能管理』のご提案をしていますので、ご高齢の方もお気軽にご相談ください。

今年は、口元から健康にし、よく噛んで食べて、笑顔溢れる1年にしていきませんか。皆様の口腔機能を健康にする手助けをさせていただけると嬉しいです。

歯科衛生士スタッフ

義歯の出来るまで　その4：発音補助装置

口腔リハビリテーション科　講師　横山 薫

義歯は、失った歯を補うことで審美性や咀嚼機能を回復するばかりでなく、飲み込みや発音機能の回復に役立っています。その中で、特に発音の補助に特化して作製されたものを発音補助装置と呼び、機能の障害により様々な種類がありますが、今回は鼻咽腔閉鎖不全（鼻漏れ）に対する装置と舌運動障害に対する装置を紹介致します。

私たちが発音をする時には、軟口蓋（のどちんこの部分）が挙上して口腔と鼻腔を遮断しています。しかし、先天的に軟口蓋が短い場合や癌の術後などで軟口蓋が欠損している場合は、口腔と鼻腔を遮断しきれないため発音時に鼻に息が漏れてしまいます。この場合には、スピーチエイド（写真1）を適用して図1のようにバルブで軟口蓋と咽頭壁の隙間を埋めて鼻漏れを防ぎます。また、軟口蓋の長さが十分であっても挙上する力が弱い場合も鼻に息が漏れてしまいます。この場合には、軟口蓋挙上装置（写真2）を適用して図2のように軟口蓋の挙上を補助することで鼻漏れを防ぎます。

一方、舌運動も発音に直結しています。例えば、タ行は舌の先端を口蓋に接触させて発音し、カ行は舌の後方を口蓋に接触させて発音します。脳卒中後の後遺症などで舌が動かない場合や、舌癌術後で残された舌の可動範囲に制限がある場合などでは、舌が口蓋にしっかりと接触できず発音しづらくなってしまいます。このような場合には、舌接触補助床（写真3）を適用して図3のように舌が挙上できない部分を盛り上げて天井を低くすることで、舌が天井に接触しやすくします。

しかし、これらの発音補助装置は鼻咽腔閉鎖不全や舌運動障害を根本的に治すものではありません。適切なリハビリを同時に行っていくことが大切です。その結果、最終的に発音補助装置を卒業できる患者さんもいらっしゃいます。発音補助装置とずっと付き合っていく場合でも、多くの方が「電話で他人と話せる」ようになるレベルまで発語・発話明瞭度が回復されます。「電話で他人と話せる」ことは、患者さんにとって社会復帰に向けて大きな自信につながります。

精神発達や形態の問題、病気の進行などによって発音補助装置やリハビリの効果が見込めない場合もあります。このような患者さんに対しても、当科では最大限の機能を引き出すよう指導・提案いたします。

発音のことで何かお悩みがございましたら、どうぞ何時でもご相談下さい。

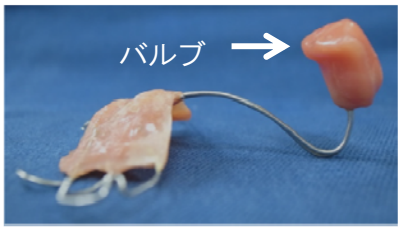

写真1　スピーチエイド

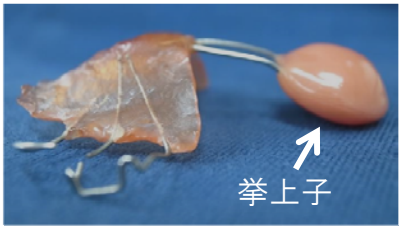

写真2　軟口蓋挙上装置

写真3　舌接触補助床

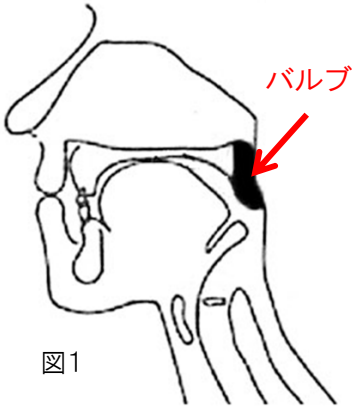

図1

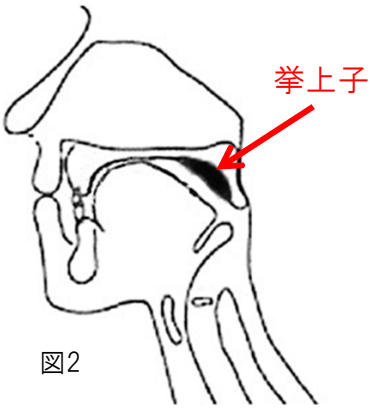

図2

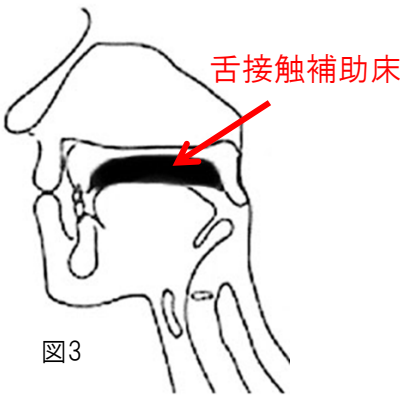

図3

部署紹介　事務課医事係

医事係長　村田 久子

事務課医事係の主な業務は、初診･再診患者の受付、診療録管理、医療費に請求に関する業務、患者相談業務および地域医療連携業務などを行っております。患者さんがより快適に通院できるよう、医事係員一丸となって笑顔で対応するよう心がけております。

昨年9月からは患者さんの利便性向上を目的に、他院からの紹介状がある患者さんの診療予約受付を全診療科でスタートさせました。紹介状をお持ちの方は右記、地域医療連携室に事前にご連絡ください。また、2月4日から「患者満足度調査」と「来院希望調査」を行うこととなりましたので、ご協力お願いいたします。

少しずつではありますが、患者さんの利便性向上や地域医療に貢献できるよう工夫しております。

※地域医療連携に関しましてご不明な点がございましたらお問い合わせください。

地域医療連携室
TEL　03(5498)1954
FAX　03(5702)0546
受付時間　平　日　9時00分～17時00分
　　土曜日　9時00分～13時00分

患者満足度調査にご協力をお願い致します

当院では、患者サービスの向上を図るため、患者さんの声をお聞かせいただきたく、下記の4日間において「患者満足度調査」を実施致します。

つきましては、アンケートのご記入にご協力下さるよう宜しくお願い致します。

1. 調査日時　：

平成29年　2月　4日(土) 9:00～13:00
　　2月　6日(月) 9:00～17:00
　　2月　7日(火) 9:00～17:00
　　2月　8日(水) 9:00～17:00

2. 配布方法　：

診療後、歯科医師より配布致します。

3. 回収場所　：

各階に設置した回収箱に投函して下さい。

◆調査結果につきましては、後日、院内に掲示致しますのでご覧下さい。

昭和大学歯科病院　事務課

編　集　後　記

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

当院では、毎年、病院長以下数名で、千束八幡神社に安全祈願と諸難消除(しょなんしょうじょ)のご祈祷にいっています。今年も、1月5日に行ってきました。千束八幡神社は洗足池八幡宮とも呼ばれ、『平家物語』に登場する名馬･池月伝説の由来ともなった社ともいわれています。洗足池の西のほとりに鎮座し、見事な景観で撮影スポットとしても人気です。

皆様も、一度訪れてみてはいかがですか。　(T.O)